

# 北海道らしい文化の復興・創造に 貢献する森づくり

平取町役場アイヌ施策推進課  
(株)平取町アイヌ文化振興公社  
日高北部森林管理署

吉原 秀喜  
米澤 諒  
武田 恵

## 平取町とアイヌ文化



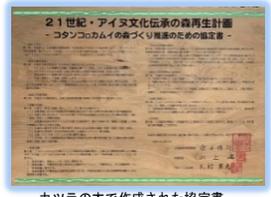
「21世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクト」を実施している平取町は、北海道日高地方の西側に位置し、町の面積の80%以上を森林が占め、東側に日本百名山の幌尻岳があり、町の中央部を一級河川の沙流川が流れる自然豊かな町です。沙流川流域には、古くから多くのアイヌの人々が生活していた「コタン」といわれる集落があり、特に「二風谷」地区は、自然との共生の中から育まれてきたアイヌの文化が色濃く残る地域で、現代にその伝統が引き継がれています。



平成25年3月にアイヌの伝統工芸品の木製のお盆「二風谷イタ」と樹皮から作った糸で織った反物「二風谷アットゥシ」が、北海道で初めて経済産業大臣より「伝統的工芸品」の指定を受けました。

## 協定に関するこれまでの経緯

2008年	「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」にて国有地でアイヌ文化の継承に必要な樹木等の自然素材を円滑に利活用できる条件整備を進めていくことが重要であることを報告
2012年	「21世紀・アイヌ文化伝承の森」構想を北海道森林管理局が提案。9月プロジェクト推進会議を設立
2013年	北海道森林管理局、平取町及び(社)北海道アイヌ協会平取支部の3者による包括協定「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画～コタンコカムイの森づくり～」を締結
2014年	北海道・北海道森林管理局で「オヒョウの持続可能な利用方策」を提案
2020年	北海道森林管理局、平取町及び平取アイヌ協会の3者により包括協定「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画～コタンコカムイの森づくり～」を更新



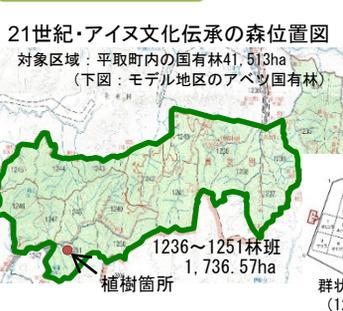
### 三者協定の基本理念

- ① 伝統的な森林の取扱いによる北海道古来の森林の再生
- ② アイヌの人々の文化伝承に必要な草本育成など
- ③ 国有林野やその産物の新たな活用と保全によるアイヌの人々や地域住民の雇用機会の創出
- ④ 地域と国有林との協働・連携による森づくり
- ⑤ アイヌ施策推進法に則った森林に係る分野での積極的な実施

【二風谷アットゥシ原材料の安定確保に向けた「オヒョウの持続可能な利用方策」】  
北海道立総合研究機構林業試験場の協力を得て、北海道と北海道森林管理局が当面の方向性を示すものとして作成

- ・アイヌ文化とオヒョウ
- ・樹種特性とその分布
- ・持続可能な採取方法
- ・造成技術の提案
- ・原材料確保に係る連携体制

## 活動内容



群状混植法～同じ種類の樹木をまとめて群状(パッチ)に植え、同じ樹種のパッチが隣り合わないよう他の樹種のパッチを配列する植栽方法。単木混植法では成長の早い樹種が優占し、混交林になりにくい。

群状混植 単木混植

和名	アイヌ語名	本数
オヒョウ	アソニ	300
アザミ	イウニ	200
キナダ	シタレベニ	100
イヌエンジロ	ナクベニ	100
エゾヤマザクラ	カリスベニ	100
カシバ	トウニ	50
ツリバナ	カスアスニ	50
計		900

群状混植法による植栽図 (1251林班)  
植栽樹種

1251林班にエゾシカ侵入防止柵を設置し、アイヌ文化の伝承に必要な広葉樹7種類900本を植樹

令和元年度、新たに2箇所0.2haにエゾシカ侵入防止柵を設置。下草の生育を阻害する防草シートを敷き、そこへ雑草を植栽

プロジェクトのシンボル、コタンコカムイ(シマフクロウ)の営巣を願い巣箱を設置

巣箱の設置にあたって、コタンコカムイの定着と地域の安全と繁栄を祈る儀式(カムイノミ)を実施

自生しているオヒョウで、一部の皮を剥ぎ、今後の回復状況を追跡調査

アベツ地区国有林1251林班0.2haにアイヌ文化の伝承に必要な広葉樹7種900本を植樹しました。群状混植法を採用し、種の多様性を確保されるよう配慮しています。二風谷アットゥシの原材料であるオヒョウの樹皮の採取は、持続可能な利用方策により、上川南部森林管理署管内及び道有林内で採取が行われています。また、今年度アベツ国有林においてオヒョウの樹皮全てではなく3分の1を剥ぎ、樹皮が回復し継続採取できるかの試験を行っています。

## 今後の取組

伝統文化を育んだ森林の回復・再生を図るには、長い年月が必要であり、広葉樹を育成する技術も確立されているとは言えません。このためにも、いくつかのアプローチにより、現地に合わせた取組を推進していかなければなりません。引き続き、平取町内の国有林を対象に、アイヌの利用樹木の生育、シマフクロウの営巣に向けての環境づくり、伝統民具の製作技術の継承、伝統的狩猟の継承に向けて取り組む予定です。令和3年度の新たな取組として、魚類が遡上できなくなっている河川工作物に市民魚道の設置や、エゾフクロウの巣箱の設置等も予定しています。また、「二風谷アットゥシ」の原材料であるオヒョウの樹皮は、沙流川流域では少なくなってきたり、オヒョウの育成も重要な取組の一つです。しかし、オヒョウは、エゾシカの食害を受けやすいという特徴があり、柵などで防護しないと成長が見込めません。また、アイヌ文化の伝承に必要な自然素材を採取しやすくする方法として、アイヌ共用林野制度などの各種制度を活用しながら仕組みづくりを進めていきます。